

「落雷位置標定システム」による雷観測を開始

総合技術研究所 電力研究室

電力系統故障総件数のうち雷による故障比率は約6割を占め、供給支障原因別にみても約4割を占めているが、いまだ雷電流の大きさ、極性等の雷撃特性については十分解明されていない。

現在、雷の発生状況は気象レーダで雷雲を観測することにより把握されている。

今回、総合技術研究所では米国LLP社から落雷電流を電磁的に検知する落雷位置標定システムを導入し、61年6月から5ヵ年間の予定でほぼ当社管内全域にわたる雷観測を行い、その実用性を検証することとしている。

このシステムは、電磁界アンテナ、マイクロプロセッサからなる方向探知局(大垣、土岐、知多の3地点)、これらから伝送されたデータを解析する位置解析器(総合技術研究所内)から構成されている。

観測記録されるデータは、落雷時刻、落雷位置、雷撃電流の大きさ、多重度および極性である。



方向探知局

英国製電気自動車の実用走行試験を実施

総合技術研究所 電気応用研究室

将来の深夜電力需要造成への寄与が期待され、かつ、騒音、排気ガス対策面からも無公害車として最適の電気自動車の研究・開発に資するため、今回、高い運転実績をもつ英国ベッドフォード社製電気自動車2台(マイクロバス、バン各1台)を購入した。

総合技術研究所では、この車の日本の道路事情下における実用走行性能やバッテリーの性能を把握するための諸試験を進めている。

なお、これらの電気自動車は、マイクロバスが知多火力発電所に、また、バンが岡崎支社にそれぞれ配車される予定で、実運用における走行性能などの検証を行う。

